

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は、利用者の意思を尊重し明るく家庭的な雰囲気を大切にし、地域との交流の下で、その人らしく暮らしていただける様支援します。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期ミーティングでの話し合いや個々で再確認し、取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	保育園や小学校、ボランティアとの交流や三和祭を開催し、家族・地域の方が参加出来る機会を設け、理念を理解される様取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃の挨拶、月1回のお茶飲み会を継続して行い、参加人数が増えている。手作りの野菜や花を持参していただき、交流機会が増えている。	6月に実施したちまき作りのような、家族と地域と一緒に参加していただける機会を設けていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の廃品回収や、祭りに参加。三和祭を通し地域交流を図っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の方へ交流会のお知らせをしなくとも、楽しみに参加されている。又地域の方同士で友達をお誘いいただき、メンバーが増えグループホームが地域交流の場になっている。</p>		
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員は自己評価の意義を理解している。自己評価は職員が話し合い日々のケアを振り返り、見直しながら作成した。外部評価結果については運営推進会議で報告すると共に、指摘のあった事柄について改善に努めた。</p>		
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回行われる運営推進会議では利用者の状況、サービス提供の状況、行事や防災訓練、外部評価の報告など様々な事柄を話し合い、サービスの向上に活かしている。また会議への参加者を通じてホームの地域への理解につなげている。</p>		
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の議事録を送るなどしてホームの状況を市に伝えている。ホームの利用者の課題として、機器のレンタルの件で市の職員に相談し適切な意見をいただき、課題解決へつなげることができた。</p>		
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>専門研修及び園内研修に参加。H15年度より成年後見制度を利用し、現在1名が活用している。</p>		
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>他施設や他事業所で起こったクレームに対し、ミーティング内で自分達の行動や声掛けなどを振り返りながら話し合っている。他人事ではないことを踏まえ、職員同士気づいたことが言いあえるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結、解約時には管理者、ホームのケースワーカー、母体のグループホーム担当のケースワーカーが介入し十分な説明を行い、理解・納得を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は利用者が食堂でゆったり過ごしたり、作業やアクティブを通して会話が長く持てる雰囲気作りをしている。その中で利用者の意見や不満が聞かれたときは家族の協力を得ながら、解決に努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時や家族が来られない場合は電話をし、利用者の近況や通信物の知らせ、職員の異動など報告している。また今年度より3ヶ月に1回サポートセンターとして、利用者や職員の近況を盛り込んだ便りを出し、家族や地域の方に配布した。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の代表者に他の家族からのホームへの意見・苦情を電話で聞く窓口となってもらっている。家族にはその体制を文書で伝えている。出された意見は職員に周知し、運営推進会議でも参考にし、運営に反映している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のミーティング以外にも職員の意見や提案の中で出た、看護師や作業療法士による勉強会で意見交換を行うなど、運営に反映している。必要に応じ幹部会議(エリア統括管理者が出席)で検討、評価し運営に反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況の変化に対応できる様センター会議間を通して十分話し合い、必要な時間帯に人員を確保している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事担当者がスタッフの適性(資格面、経験、認知症ケアに対する能力)を的確に評価し職員配置を行っている。異動の際にはスタッフへの説明を人事担当者及びエリア統括管理者、施設管理者と共に行い、十分な理解が得られるよう努めている。また利用者への影響も考慮し業務引継ぎ期間も可能な限り設けるようにしている。運営推進会議、家族の面会などの機会に利用者家族や地域にも報告を行っている。</p>	
#####	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが行われている。</p>	<p>緊急時の対応マニュアル、感染症マニュアルなど整備している。又マニュアルによっては(徘徊搜索マニュアル)母体全体で随時見直しが行われている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	職場内のOJTと共に職員に対する研修(新人研修、段階別研修、中間管理職研修、幹部職員研修)を運営施設全体で行っており、資質向上に努めている。又医療連携体制加算において契約している訪問看護ステーションより医療面の研修を定期的に受けている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会が行う研修に参加し、グループ討議等を通して交流を図っている。又定期的に法人内の3グループホームの勉強会及びサービス間会議を開催している。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者がスタッフ間の意見を聞くようにしている。又人事担当者がスタッフのメンタルヘルスに関しても担当しており相談や助言の窓口となっている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課により管理者を通してスタッフ個々の実績を把握する仕組みがある。又必要に応じて幹部職員が施設管理者と面接を行う。資格研修や学会等へのスタッフ参加(症例発表含む)を通してスタッフに向上心を持ってもらえるよう努めている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケースワーカーと看護師が事前訪問を行い本人と会い、安心して利用できる様、家族と共に話し合う機会を設けている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケースワーカーと看護婦が事前訪問の機会に話を聞いている。ケースワーカーと管理者が中心となって家族の思い等を聴き受け止める努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人のグループホーム担当のケースワーカーが中心となって相談を受けている。事業所で相談を受けた際にはケースワーカーを通じ出来る限りの対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在のところ馴染みながらのサービス利用は行っていない。入居判定カンファレンスを実施。入居対象者、家族の希望、対人関係等を検討し入居決定を行っている。現在は対象者ではないが地域の人とお茶飲み会を通しグループホームを知っていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に会話を楽しんだり、本人の出来る事やしたいことを引き出し、一緒に取り組んでいる。その中で知らなかった利用者の一面や可能性を知り、信頼関係を徐々に深めている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者の近況を伝える。また利用者に状態変化があった場合には面会に多く来ていただくなど共に利用者を支えていく関係作りに努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常生活状況を連絡すると共に利用者家族の悩みを話せる環境作りを行うことで、ご家族の面会も増え個室でなく食堂等でオープンに過ごされている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が本人との生活を密に出来るよう、行事連絡は家族参加型とするような連絡を行っている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶、食事の時には声掛けに行かれたり、居室で過ごされている利用者の様子を見に訪問されたり、相手を思いやる関係が出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	当施設はターミナルケアを行っている。死亡退所が殆どであり、死後も家族が思い出を分かち合う為、時々訪ねて来られる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や観察の中で希望すること、意思を把握しようとしている。又意思の伝達が困難な場合も観察によりその方の伝え方、意味を把握し職員の共通した理解により本人本位のケアにあっている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族からの協力を得ながら、生活歴等の情報把握に努めている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの日常を注意深く観察し、気付き等を記録して、職員の共通理解として把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケアの中でその都度気づいた事、意見等を申し送りノートに記入。時には訪問看護、主治医、ブロック管理者のアドバイスを、職員間で検討し、家族の意向を確認しながら介護計画を作成している。		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを実施してケアプランの見直しを行っている。又状態変化時には随時カンファレンスを開催し家族や関係者と話し合い見直しを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録をつけ職員間で情報を共有し統一したケアを行っている。ミーティングにより介護計画のモニタリングを行ない見直しを行いより良い介護計画になる様に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階のデイサービスへ知人に会いに出掛けたり、デイサービスボランティアの保育園児の慰問、音楽ボランティア、ビデオ鑑賞等レクリエーション活動に参加したりと、デイサービスや有料老人ホームとの関わりをもっている。利用者の状況によりデイサービス職員の支援を受け、サポートセンターとして利用者への関わりを持っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアは毎月来園し話の傾聴、レクリエーションなどに参加してもらっている。近隣小学校の児童の校外学習の場を提供したり、地域近隣の方からは自宅で取れた野菜、花を持参されての訪問など地域資源と協力しての支援を行っている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点では他のサービスを利用されている方はいないが以前1名デイ・ケアを利用されていた。サポートセンターとして協働する形での支援の取り組みを行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて地域包括支援センターに地域資源ネットワークの拡充を働きかけている。現在、司法書士が後見人となり、後見制度を利用している方がいる。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により在宅医を決め、2週間に1回定期往診をしていただいている。本人からの健康相談や職員からの質問に適切な助言をもらい支援につなげている。必要時にはサービス担当者会議へ出席、家族と共に利用者への援助を支援してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要時には主治医から助言や指示をもらえる。又協力機関に精神科があり支援体制がある。</p>	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>週に1回訪問看護によるバイタル測定を行っている。健康面について利用者や職員の相談にのって貰っている。現在経管栄養の利用者がおり、研修で経管栄養の取り扱い方や緊急時の吸引方法を訪問看護師より実習し、連携の取れた支援を行っている。</p>	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院のケースワーカーとホームのケースワーカーが中心に連絡調整を取っている。同時にホームでもサービス担当者会議で統一したケアに対する見解のもとでの退院となるような準備を行っている。</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合の対応に係る指針の書面にて家族に説明し同意を得ている。家族の意向を確認しながら主治医との連携を図っている。</p>	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>医療連携体制加算により訪問看護による24時間連絡体制、週1の訪問時には日常的な健康相談ができる。主治医はいつでも連絡をとれる体制となっており、必要時にはサービス担当者会議へ出席、今後の状態変化を見据えた助言をもらい検討した。事業所の「できること、できないこと」についても相談できる体制となっている。</p>	
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ホームへの住み替え前は本人、家族に十分説明し管理者、ケースワーカーが中心となって支援している。住み替え後の利用者の心の混乱や不安な気持ちをケアワーカーが受け止め、落ち着いた日々を過ごせるような支援を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	否定的な言葉を使用せず、一人ひとりの人格、能力を考慮した対応を行っている。個人情報に関するものは、外来者等の目の触れない様に配慮している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その人に合わせたわかりやすい言葉や方言、敬語等を一人ひとりに使っている。発語のみで意思を訴える事が難しい方には声のトーンやアイコンタクトにより理解を得ている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた生活リズム(起床、食事、就寝)でゆったりとした日々を過ごして頂いている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域の理容院を利用され自分の希望通りの髪型にしてもらっている。着替えは好みの物に着替え、希望の髪飾りを購入することもある。鏡に向かって整髪を行い、身だしなみを整え、自分らしいおしゃれを楽しまれている。自ら外出できない方へは定期的に地域の理容院に出張してもらっている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや味見、下膳等手伝ってもらっている。本人好みの味付けや食事形態にして食事が楽しく、食欲のわくような工夫を行っている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々好みを把握し提供している。(コーヒー、甘いお菓子等) 外出先でも好みのものを聞き購入している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い個々の排泄状況を把握。表情や行動を観察しトイレ誘導、排泄介助を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室はデイサービスと共有であり利用時間帯は限りがあったがデイサービスとの連携・協力体制を新たに作り入居者の希望を聞きながら身体に負担のかからない支援を行っている。入浴時間帯について前々回外部評価で指摘されたが家族に説明し、時間帯については同意を得ているが新たな支援体制により入浴時間帯の幅が広がった。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	身体状況、様子観察によりいつでも休息出来る様に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々にあった出来る事を見い出し支援している。チラシ・新聞縛り、ゴミだし、洗濯たたみ、掃除、買い物等日常生活での役割を通し張り合い、喜びにつながっている。家族から生活歴を聞き(俳句、絵等)ケアに生かしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で財布を持っていられる利用者さんはいられないが、本人の希望に応じ随時出し入れ出来る状態にあり、日用品の購入の援助をしている。出納した事項は記帳時に複数の職員で確認。月1回ご家族より、帳簿確認のサインを頂きコピーをお渡ししている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の身体的状況や気分に応じ、日々の生活の中で家族と共に家族の見舞いや買い物、季節に応じた外出等個別に応じた処遇を行っている。重度者は入浴前に外気にふれ気分の活性化を図っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出、花火見物など個人の希望に添った機会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との交流を深める為に本人の意識を促す助言と不安となる事柄についての解消法として共に手紙で近況報告を行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問時にはお茶を出し、入居者の近況を伝え、訪問し易い雰囲気作りを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が認識しており身体拘束は行っていない。拘束に関する勉強会にて理解をしている。家族と話し合い安全な生活空間の整備を行っている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵をかける事はない。見守り声かけ等で対応を行っている。安全面を考慮しセンサーを設置している。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜間を通し職員はリビングにあり、さりげない声掛けや見守りで全利用者の所在を常に把握している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険や注意を要する、物品については手の届かない所や施設出来る所に保管している。又入居者の状態に応じ日常使用している髭剃りや湿布等は個々で管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	適宜勉強会を開き、知識を得ている。ヒヤリハットの報告や日々の心身の変化や気付きノートに記入、検討し事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に勉強会を実施し知識は得ている。緊急対応マニュアルがある。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議での話し合いの中で働きかけている。消防署からは避難訓練の指導等の協力を得ている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについてはご家族への理解を会話の中で求めている。特にリスクの高くなった利用者家族へは細やかな配慮と説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に利用者の変化に気を配っており、異変の発見時にはマニュアルに添っての対応を迅速に行うことができる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報シートを保管、薬が変わった時には交換し常に新しい情報が職員にわかる様にしている。変化時には申し送りノートへの記入、確認で統一した理解を得ている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックや利用者の行動の様子観察で便秘の状態を把握できている。便秘の予防には薬に頼るだけでなく牛乳、ヨーグルト、バナナなどをおやつに摂って頂き自然な排便を行える工夫をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	汚れ、臭い防止はもとより、誤嚥性肺炎防止として食後、口腔ケアを個人に合った方法で(スワブ、アルファージェでの保清、歯磨き、ブラッシング、うがい等)支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューに基づき食事を提供している。(1500kca)食事チェックが必要な方には行っている。食事形態も個人にあわせ通常、ミキサー、とろみで摂取しやすい工夫を行っている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の流行や他施設で発生という情報が入るようになっており、すぐに予防や対応を行っている。感染症に関する対応マニュアルがある。毎年家族や本人の了解の下でインフルエンザの予防接種を実施している。感染症に対する勉強会も開かれている。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は安全で新鮮なものを使用している。台所、食堂のテーブル等除菌剤使用し予防している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木やプランター等が置いてあり、やさしい雰囲気を作っている。またスロープや手すりを設置している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には花や金魚等を置き、皆で楽しめるようにしたり、廊下には絵画や写真、利用者の作品を飾り、利用者や外部から来られた方にも楽しんでもらえるようにしている。季節を考慮し、その都度共用空間の飾りをアレンジしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に長イスを置き、思い思いに休んだり談笑したりできる空間作りをしている。車椅子での移動が出来るような空間を確保した。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりが安心してその人らしい部屋でくつろぐ事ができる様、本人や家族と相談しながら使い慣れたイス、こたつ、箆笥、仏壇等を持ち込んでもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝は窓を開け外気を取り入れている。個々に好みの温度があるので本人が気持ちよく過ごせるように温度調節に気を配っている。特に夜間など寒すぎたり暑すぎないような心配りを各ケアワーカーが行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレに手すりを設置し、エレベーターが設置されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレが認識できない利用者には廊下にポスターや手作り看板を設置しトイレが認識できるように環境面の工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏から季節の花を摘めるようになっている。ベランダから日々、夕日を眺めたり夏には花火見物を楽しむことができる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・利用者一人一人を個人として尊重し、住み慣れた地域の中で安心して、その人らしく暮らし続ける事を支援します。